



平成26年8月24日(日)に新潟県柏崎市西山町の^{うしろだに}後谷ダムで、ろうそくの灯りでダムをライトアップする「^{まんとうえ}万灯会」を開催しました。後谷ダムでは、試験湛水により初満水になったことを記念して、平成20年12月に初めて万灯会を開催し、本年度で5回目の開催となります。ろうそくを入れるキャンドルグラスは、ワンカップのビンを再利用しており、本年度は約1,800もの灯りがダムを照らしました。

万灯会の開催に当たっては、当事業所のほか、ダム地元の後谷集落、別山コミュニティ振興協議会、柏崎土地改良区、新潟県柏崎地域振興局、柏崎市、刈羽村で、後谷ダム「万灯会」実行委員会を組織し、後援としてダム湖に隣接する宿泊施設「ゆうぎ」の協力も得ながら、準備を進めてきました。

本年度は、「ひかり遊び 万灯会」と題して、来場者がろうそくへの点火に参加できるイベントや、当日撮影した写真を応募できるフォトコンテストを企画しました。また、昨年度から取り組んでいる、小学生らによるキャンドルグラスへの絵付けも、さらに参加児童を増やし、今年は色鮮やかなグラスが約750個(昨年度の4倍以上)用意されました。さらに、地元の後谷集落の発意で、「西山コーラスたんぽぽ」の皆様によるコーラスコンサートや、おでんの出店(無料)が企画されました。

事前の準備として、8月20日(水)には、地元集落や関係機関職員あわせて約40



隅々まで草刈り



みんなで一斉に点火



おでん調理チーム(あっという間に完配!)

人で、来場者が心地よく万灯会に参加できるよう、ダム堤体やその周辺の草刈りを行いました。地域の住民や関係機関が団結することで、隅々まで草刈りを行うことができ、後谷ダムは最高のコンディションで万灯会当日を迎えます。

万灯会当日の8月24日（日）は、見事な晴天に恵まれました。昨年度（7月末開催）が雷雨に見舞われ順延したことをうけて、例年より1ヶ月程遅い日程で開催したことが功を奏したようです。協力スタッフは、午後4時から集合し、受付テントの設営や、約1800本のキャンドルグラスの配置等を行いました。

辺りが少し薄暗くなり始めた午後6時半に関係機関の各代表者による点火式が行われました。式では、後谷集落の高橋区長から「皆様の日頃の行いのおかげで、天候にも恵まれました。来場者も、皆さんも万灯会を楽しんでもらいたい。」との挨拶があり、また改良区の武田事務局長からも、「ダム供用から5年が経ち、万灯会も第5回を迎えます。万灯会を通して、後谷ダムについて知る機会となってほしい。」と挨拶がありました。その後、集まった30人ほどの来場者が、「万灯会」の文字に並べられたロウソクに点火し、今年の万灯会が始まりました。嬉しいことに、来場者のなかには、「点火を楽しみに来たの。うふふ。」とマイ・チャッカマンを持参された方もいました。

空が少しずつ暗くなるにつれて、ロウソクの灯りは、だんだんと丸みを帯びていきます。一秒一秒表情を変えていく、夕闇の後谷ダムと、自分の描いたグラスを探す子どもたち。カメラマンたちは、一眼レフと三脚を抱えて「シャッターチャンス！」を待ち構えていました。

午後7時半からは、「西山コーラスたんぽぽ」の皆様によるコーラスコンサートが始まり、「ほたるこい」「うみ」などの童謡から「精霊流し」「花は咲く」まで多様な演目に、幅広い年代が聴き入りました。特に、真夏のロウソクに囲まれて聴く、「ア



ダム堤体を立体的に映し出す



子どもたちがつくった ひかりモニュメント



美しい歌声がダム湖に響く

ナと雪の女王」は子どもたちの心をつかみ、一緒に熱唱する姿があったほどです。このコーラスコンサート 30 分間で、万灯会は、過去最大の来場者を迎えました。

来場者からは「夏の最後にいい思い出ができた。」「カラフルなグラスがいっぱいで心があたたまった。」「これからも続けてほしい。」という声を聞くことができ、万灯会は大盛況のうちに閉会しました。

地元集落の方との打ち合わせの中で、このような意見をいただきました。「後谷ダムは、私たちのご先祖が残してくれた田んぼの上に、造られています。だから、私たちも、将来の世代に、後谷ダムを残し、守っていきたいのです。」今後とも、後谷ダムが、柏崎刈羽地域の農業の発展に寄与するとともに、地域の財産として愛されながら、地域の活性化につながるように、当事業所は、地域の方々と一緒に万灯会を応援していきたいと考えています。

(原稿作成：Y)